

令和4年度学校自己評価システムシート (県立戸田翔陽高等学校)

S07

目指す学校像	基礎的な知識・技能の習得を基本に、主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するための資質・能力を身につけた「人財」の育成を目指す学校
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、生徒の学ぶ意欲を喚起して、学習の基盤となる「言語能力」を育成する。 2 かけがえのない存在、必要とされる存在としての自尊感情及び徳性を涵養させる。 3 探究する力を育て、多岐にわたる進路希望の実現を系統的・組織的指導で支援する。 4 学校外資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域で生かす。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 2 月 3 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 学習意欲が高い生徒がいる一方、基礎学力の定着に課題がある生徒や日本語を母語としない生徒もいる。 【課題】 多様な学習歴を持つ生徒の実態を把握、学習意欲を引き出すことが課題である。	感染症対策を取りながらも、ピアラーニングや表現活動など、生徒の言語能力を育成する活動を充実させ、生徒の学習意欲を向上させる。	①少人数展開授業や ICT 機器の活用により生徒の学習理解を把握する。 ②ICT 機器の活用とアクティブラーニングの授業の実施により、生徒の表現活動の機会を増やし、言語能力を育成する。 ③多文化共生推進員、学習サポーター等による積極的な学習支援を実施する。	①ICT機器を活用した生徒の学習理解の把握はできたか。 ②ICT機器とアクティブラーニングを取り入れた授業を実践できたか。 ③生徒の授業評価において、理解度が向上したか。 ③成績不振者数を減らせたか。	①ICT機器を教材提示のみでなく、アプリを利用した小テストなどで学習理解を把握することができた。 ②学習アプリの同時編集機能を利用した授業を通して、オンライン上での意見のやり取りなどを行うことができた。また、戸田市の小学校への授業見学を通して、ICTを活用した実践的な授業について学ぶことができた。 ③成績不振者数は増加してしまっただが、生徒授業満足度は4.0(5段階)と高水準であった。	A	次年度の1年次から、一人一台タブレットの導入が始まることから、ICTを活用した効果的な学習活動を全教職員で取り組むことが求められる。
2	【現状】 対人関係が苦手など、多様な背景を持つ生徒や、基本的な生活習慣が身につけていない生徒がいる。 【課題】 規律ある生活を確立するとともに、多様な背景を持つ生徒に対し、自尊心を育成する必要がある。また、消費者教育など、成年年齢の引き下げに伴う教育を実施する必要がある。	規律ある生活を確立する。	①全教職員による一貫した指導により、生徒の規律ある生活を確立する。 ②成年年齢の引き下げに伴う教育を実施する。	①日常的な指導により、生徒の変化を把握し、組織的な対応ができたか。 ①中途退学者数を減らせたか。 ②成年年齢の引き下げに関する授業や講演会等を実施できたか。	①正門指導やふれあいの時間での指導状況を職員間で積極的に情報共有し、年次や分掌を超えて指導することができた。中途退学者数は減少した。 ②授業内の活動だけでなく、年次単位での講演会を実施し、成人年齢引き下げに伴う売買等における契約の注意など、金融トラブル及び悪徳商法の予防等について学ぶことができた。	A	基本的な生活習慣を身に付けるための取組は、今後も地道に継続する必要がある。成人年齢引き下げに伴う教育について、さらに組織的に継続していく仕組みを構築する。 特別支援教育的な支援について、学校・家庭・関係機関と連携し、更に研修、実践を進めていく。
		自尊心と相手を尊重する心を醸成する。	①専門家による生徒理解を促進する教員研修会を実施する。 ②教育相談員、SC及SSWとの円滑な連携により生徒の自尊心を高める支援をする。 ③戸田市及び戸田かけはし高等特別支援学校との教育支援の連携を積極的に進める。	①多様な生徒の理解を深め、頼れる生徒相談が行えたか。 ②困っている生徒を早期に把握、関係機関、家庭と連携が取れたか。 ③特別支援教育についての理解を深めることができたか。	①教育相談部会を毎週実施し、生徒情報を絶えず共有しながら、教育相談スタッフと連携して対応した。 ②必要な支援についてSCやSSWと連携して関係機関と連携することができた。 ③特別支援教育巡回支援員による職員研修会を実施し、生徒の発達傾向や支援方法、感情の役割とコントロールの重要性等について学ぶことができた。	A	
3	【現状】 進路実績は大学短大、専門学校、就職がほぼ同数であり、多様化している。 【課題】 進路指導部だけでなく、担任、年次、各教科が系統立てて進路に関わることで、時代の変化に対応した進路指導を行う必要がある。	生徒一人ひとりの将来を見据えた多様な進路に対応した指導を行う。	①「産業社会と人間」の系統立てた実施により、生徒の進路意識を高める。 ②民間の学力診断テストの実施後、効果的な振り返りを行い、日常の学校生活へ還元する。 ③ICTを活用し、データ化した求人票を生徒が家庭でも自由に見られるようにする。	①生徒の進路希望をもとに「進路の手引き」を効果的に活用した履修指導ができたか。 ②基礎力診断テスト実施後の結果と生徒へのフィードバックの研修を実施し、生徒の学習意欲・進路意識向上につながられたか。 ③進路指導の満足度は高かったか。	①履修指導における動画を用意し、職員も生徒も効果的に活用して履修指導を行うことができた。 ②基礎力診断テストの結果を利用した職員研修会を実施し、生徒の進路意識向上に向けた情報を職員間で共有することができた。 ③指定校を新たに2校増やし、うち1校に合格者を出ることができた。校内で受付した求人票のデータ化により生徒が手軽に随時新しく求人票を見ることができるようになり、企業選びが効率的になった。	A	基礎力診断テストの結果を踏まえた授業改善や指導の改善を進める。 データ化した求人票を生かした進路指導を更に充実させていく。
4	【現状】 浦和大学や戸田市と連携協定を結んでいる。また、学校運営協議会を開催している。 【課題】 生徒募集において、本校の特色や魅力を伝える努力が一層求められ、地域へのPRを積極的かつ持続的に進める必要がある。	地域との連携により地域に根付いた学校づくりに取り組む。	①連携を生かした生徒の活動成果をPRする。 ②コロナ禍においても学校運営協議会を円滑に運営する。 ③学校通信を3回以上発行し、近隣自治会に回覧する。	①県及び市関係行事などに生徒が関わることができたか。 ②時代の変化に対応した学校運営協議会が開催できたか。 ③学校通信を発行、教育活動の理解を深められたか。	①コロナによる制限が多くあったものの、3年ぶりに文化祭を一般公開することができた。 ②学校運営協議会をハイブリッド形式で実施することが出来た。 ③学校通信を11号発刊し、近隣自治会に回覧した。	A	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、更なる地域との連携を進める。 本校の特色と強みを生かし、積極的かつ持続的にPRを続けられる体制づくりを行う。
		学校の特色を積極的にPRし、志願者を増加させる。	①積極的なホームページの更新、学校説明会を実施、教育活動のPRを行う。 ②アンケートを実施し、本校に対するニーズを把握する。	①ホームページ更新によりアクセス数を増やせたか ①学校説明会参加者の高い満足度は得られたか ②志願者数を増やせたか。	①12月末時点でHPを81回更新(昨年度年間56回)し、HPのアクセス数も増やしPRすることができた。学校説明会参加者も増加した。 ②12月15日現在、I部1.31倍、II部0.82倍、III部0.33倍。昨年度よりI部とIII部で増加した。	A	

学校関係者評価	実施日 令和5年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	ICTの活用が進んでいることは非常に素晴らしいが、成績不振者が増加してしまった原因を把握し対策が必要である。 更なる授業改善やICTの促進のため、生徒自身が動画撮影したものを提出させたり、テスト前に復習プリントや動画を配信したりすることもできる。 安定した学校生活のために、基本的な生活習慣や体力面の向上も求められる。
	中途退学者が減少したことは素晴らしい。経年比較等しながら中長期的な視点で、中途退学者が更に減少するように工夫すると良い。 成人年齢引き下げに関する授業や講演会は非常にありがたく良い学びとなった。ぜひ保護者にもその内容を情報提供して欲しい。 戸田かけはし高等特別支援学校のセンター機能を生かし、教員交流や研修会などを実施し、相互の交流を充実させて更に連携が進むと良い。
	進路未定の生徒が多くいる中で、進路選択のための説明会や科目選択説明会の充実が求められる。 スタディサブリの利用の促進や基礎力診断テストの課題などを通して、進学指導が更に充実すると良い。 スタディサブリや求人票の電子データが利用できることを保護者にも積極的に周知して欲しい。
	学校通信を自治会で回覧するのは素晴らしい。学校PRや地域からの理解のためにもぜひ継続してほしい。 地域アンケートを工夫して継続するとともに、文化祭の案内や自治会行事についての連携によって更に地域交流が進むと良い。 学校説明会で、生徒が施設を案内したり学校生活を説明したりすると、中学生や保護者に良いPRになると思う。

